

外国人患者の医療渡航促進に向けた医療コーディネーター事業者のあり方等に関する研究会（第1回）
議事要旨

日時：平成29年10月30日（月曜日）15時00分-17時00分

場所：経済産業省 本館17階東5 第4共用会議室

出席者 堺委員（座長）、相川委員、麻田委員、今村委員、呉委員、小山委員、澤委員（代理：徳増氏）、高橋委員、横山委員（50音順）

議題

1. 外国人患者の医療渡航促進に向けた現状の取組と課題
2. 日本の医療の海外における認知度向上に向けたプロモーション手法

議事概要

1. 岸本国際展開推進室長から「外国人患者の医療渡航促進に向けた現状の取組と課題について」説明を行った後、各委員等からの発表を踏まえ「患者・医療機関のニーズを満たす医療渡航支援企業・医療コーディネーターが少なく、質の高い患者支援がなされていない」という課題への対応について意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。
 - 現在2つあるAMTAC（MEJが認証した医療渡航支援企業）の数を今後増やすことで、地方への対応拡大を見込むだけでなく、互いに高め合うことによる質の向上も見込めるのではないかと
 - 質向上のためには、コーディネーターに医療に関する専門性をどこまで求めるのか、病院内の体制と病院外のコーディネーターの役割を明確にする必要がある
 - AMTACの要件緩和の検討において、複数の医療機関とのコーディネート実績がなくても、質の高いサービスを提供できていれば、認定しても構わないのではないかと
 - コーディネーターの質を定量的に評価、あるいは可視化された基準に落とし込むことは困難であり、質を担保するための方法については、今後検討を進める必要がある
 - コーディネーターに関するガイドライン自体を定期的に見直すことにより、認証の基準などを継続的に調整していく必要がある
 - JIHの数を増やすことで、それぞれの病院が中途半端に医療通訳を奪い合うような状況になるのは非効率であるため、当面は数を追わず、どのようにJIHに支援を行い、どのように実績につなげていくかという取組が重要
2. 岸本国際展開推進室長から「日本の医療の海外における認知度向上に向けたプロモーション手法（案）」について説明を行った後、「有効なプロモーション」について意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 検索サイトで外国から、「外国人の治療を受け入れる日本の医療機関」のようなキーワードで検索した際に、しっかりと JIH のサイトが表示されるような導線を確認すべき
- 現時点で JIH に、どの程度医療渡航者の受け入れが可能なのか把握しておくことは、プロモーションをする上でも重要
- JIH で実際にどれくらい受入れの実績があるのかを把握する際にあわせてどのくらいの受入れキャパシティーがあるか把握することができるのではないか
- AMTAC と提携している病院 150 のうち、患者からの希望があるのは 100 程度で、その中でも 80% の患者は上位 20 の病院を希望するため、受入人数に濃淡がある状況
- 患者から特定の病院の医師を指名されることが多いが、プロモーションを通じて東京だけでなく全国の医療機関を知っていただくと、もう少し患者さんが全国に分散化していくのではないかと
- プロモーションツールを作る上で、他国の競合分析をしてはどうか

お問合せ先

商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 国際展開推進室

電話：03-3501-1790

FAX：03-3501-0315